



オートトレーディングは電気の下駄を売ります

下駄ですから、毎日気兼ねなく使っていただけます。
多少汚れたり、傷ついたりしても気にせず、毎日ガンガン使ってください



下駄ですから革靴とは違います。

ですから、以下のような人は購入をおすすめしません。

- ブランド志向が強い人
 - ー 中国製です。
- とにかく品質にこだわる人
 - ー 日本製と比べると劣ります。塗装のムラがあったり、個々のパーツの仕上げが今一だったりします。
- 電動スクーターは原付の代わりになっている人
 - ー スピードは一生懸命頑張っても35-40km/hしかできません。(法定速度は30km/hです。)早いスポーツ自転車にも抜かれることがあります。トルクもあまり強くありません。急な坂道ではめっきり遅くなります。(一応登坂角度は10°未満です。)
- 重いのは嫌だという人
 - ー 鉛酸バッテリーを使用していますので、リチウムイオンバッテリーを使用している大手の電動スクーターと比べて20-25kg重いです。

でも、次のような人にはぴったりです。

- シンプルイズベスト、過剰な機能や装備はいらな**い**と思っている人
 - 1車種でカラーもシルバーのみです。機能いっぱいのデジタルメーターや、薄型のかっこいいモーターも使っていません。デザインも“普通”のスクーターのデザインです。
- 買い物などの際に、移動の道具として最低限の働きをしてくれれば**いい**と思っている人
 - 1日15kmぐらいの走行でしたら、1回の充電で2日は十分、条件がよければ3日間も走行可能です。
- とにかく安**い**製品が欲しい、でもそれなりの保証も欲しい人
 - いくら安くても何の保証も付いていないと不安ですよね。特に製品が中国製の場合。でも、ご安心下さい。オートレーディングの電動バイクは以下のような保証付きです。
 - 安心の長期保証 モーター 2年、コントローラー、充電器 1年、バッテリー、その他機能部品 6ヶ月（タイヤ、ブレーキ関連消耗部品は除く）*
 - （*通常の使用下での保証となります。）
- もちろんエコに関心がある人も。
 - 空気を汚さないし、音も静か。電気代も安**い**です。
 - 電気代は1円で約3km、つまり30km走っても10円ですみます。

では、電動スクーターの簡単な説明です

電動スクーターの主要部品はモーターとバッテリーです。

AT-ES1は500W のモーターを使用しています。

電気モーターはガソリンエンジンと違って

構造が簡単です。

オイルも必要ありませんし、エアフィルターもありません。

構造が簡単と言うことは、あまり壊れないということ。

定期的に交換を必要とする部品がないということ。

AT-ES1は中国製ですから、モーターも勿論中国製です。

中国製は品質面で日本製より劣る

それは事実です。でもガソリンエンジンのような複雑な構造もしていないし、たくさんの部品を使っていないので、

とにかく壊れる個所が少ない。

ですから中国製でも日常の移動ツールとして使用する限りは、充分だと思えます。



鉛酸バッテリー使用 安い維持費

バッテリーは鉛酸バッテリーです。

日本のメーカーが使っているようなリチウムイオンバッテリーではありません。重い、充電時間も長い、パワーも若干弱いという欠点もあります。

でも、平均して毎日15km前後しか乗らないなら、高価なリチウムイオンバッテリーを使わなくても、鉛酸バッテリーでも充分とオートトレーディングは考えます。

そして取り替えバッテリーの価格も安く設定しました。

バッテリーは2つのケースに分かれていますので、シート下の充電口に充電器のケーブルをつないで直に充電する以外に、取外して室内で充電することもできます。



鉛酸バッテリーは重い(2つで28kgあります。)ので、持ち運びは大変ですが、バッテリーを取り外せば動きませんので盗難予防にもなります。電動アシスト自転車と同じです。

注)バッテリーは消耗品です。2日に1度充電すると2年ぐらいで交換が必要となります。あまり距離を走らない場合は3日に1度の充電でもOKです。そうすると3年ぐらいは使えます。

安い維持費

充電を満充電8時間として、電気代は約15円ほどです。

1回の充電の電気代を約15円で計算するとして、

- 走行距離が45km

- 1リットルのガソリンが150円

として計算すると、

電気代150円分では450km(45km × 10倍)

走行する計算になります。

ガソリンタイプのスクーターは

1リットル当たり(車種にもよります)

約65km前後走行しますので、

電動バイクの燃費はガソリン車の

7倍優れている計算になります。



電気代1円あたり約3km



充電費1回 15-20円



CO2排出量 0



オイル交換不要

注) 1充電当たりの走行距離は路面の状態、速度、運転者の体重によって変わります。

またオイル交換、フィルター交換も必要ありません。

バッテリーの価格もお値打ちに設定しています。

日頃のメンテはほとんど不要

- 日頃のメンテナンスはほとんど必要ありません。
- 予備のチューブとバルブは携行されることをお勧めします。
- 運転前の点検は、タイヤの空気圧と、ブレーキの効きの調整ぐらいです。
- 故障した場合は、部品をオートトレーディングから送りますので、近くのバイク屋さんでも簡単に修理ができます。また、もし近くに修理するところがない場合でも、AT-1が提携しているニッポンメンテナンスシステム(株)全国の修理工場のネットワークがご利用いただけます。(保証の範囲外の故障は、有料となります。)



電動スクーターAT-ES1には以下のような保証付がきますので、お客さまに安心してご購入求めいただけます。

- モーター 2年
- 充電器とコントローラー 1年
- バッテリーとその他電装品 半年
- (ただしバルブ等の消耗品は除きます)

すべての部品が供給可能ですので、将来において部品が入手できないために修理できないということはありません。

故障のQ&A

Q1,一番多いトラブルは何ですか？

A1,一概に言えませんが、通常の使用においてはタイヤのパンクが多いと思います。

Q2,パンクした場合はどうすればいいのですか？

A2,近くにバイク屋店があれば、そちらで修理してもらえます。自転車店でも可能な場合があります。料金はチューブの交換で2000円ー3000円ぐらい(チューブ代別)ですが、パンクの状態によって変わる場合もあります。

Q3,ヘッドライト、ブレーキランプ、ウインカーなどのランプが切れた場合はどうすればいいのでしょうか？

A3,各々のバルブの交換は、ねじや、ボルトを外してボディーパーツの一部を取り外すことにより、簡単に行っていただけます。もちろんバイク店や修理工場に持って行っても10ー20分程度で交換していただけます。そのようなところに頼んだ場合、工賃は大体2000-4000円ぐらいが目安です。

Q4,保証対象部品が保証期間内に壊れた場合はどうすればいいのでしょうか？

A4,お近くのバイク店で修理が可能であれば、当社から部品を送り、修理代も当社が負担させていただきます。

Q5,バイク店で修理できないと言われた場合はどうなりますか？

A5,当社が提携しております、ニッポンメンテナンス様の提携工場での修理が可能です。

(提携先はこちらのURLから検索していただけます。

http://www.koutokuten.com/customer/guide_area.html

A4二つ折カタログ



A4両面チラシ



スタンドディスプレイ

**南原電樹
プロデュース!
ECO電動スクーター
登場!**

再販 電樹

「AT-ES1」誕生

MERIT

- ① 3km
- ¥ 15~20万円
- 45km/h以上
- CO2 0g/km
- エコドライブ
- キックスタート
- LEDヘッドライト
- LEDテールライト
- LEDリアライト
- LEDフロントライト
- LEDインジケータ
- LEDメーター
- LEDディスプレイ
- LEDインジケータ
- LEDメーター
- LEDディスプレイ

EQUIPMENT

- HANDLE** エキスパートのライダー向けに、より快適な操作性を実現。
- BATTERY** 100%充電で、最大100kmまで走り、充電も簡単。
- HEAD LIGHT** 大型LEDヘッドライト。毎日の通勤に、やさしい見送り。
- REAR WHEEL** 静かですらな500Wモーター。
- REAR LIGHT** ヘルメットも、簡単に収納可能なヘルメットホルダー。
- TAIL LIGHT** 静かですらな500Wモーター。

SPEC

オートレーディングシステム株式会社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111
www.autotrading.jp

**新たに
ECO領域へ**

S=1/5 (実寸 W900 mm × H1685 mm)

シンプルに徹する

オートトレーディングは「電気の下駄」をできるだけ安く販売するために、とにかくシンプルに徹しました。

メディアを使っただけの広告・宣伝はしません。(ただで紹介してくれる、と言う場合は別です。)

モデルも1機種、カラーも1色、オプションもありません。

その分極力安価に提供させていただけるように努力しました。

また、バッテリー以外にも補修部品の価格もできるだけ安く設定していますので、保証期間後に故障が起きても、ガソリンスクーターと比べてはるかに安い料金を修理が可能です。

エコはまずシンプルであることから

それが、オートトレーディングの考えです。



仕様

1	外寸 (長さ×幅×高さ)	1800×680×1020mm
2	ホイールベース	1285mm
3	最低地上高	110mm
4	重量	87kg
5	ブレーキ (フロント/リア)	110mm径 ドラム式/ドラム式
6	ホイールハブ径 (フロント/リア)	2.5×16 / 2.5×16
7	タイヤ (フロント/リア)	16×3.0 / 16×3.0
8	タイヤ空気圧 (フロント/リア)	240kPa
9	モーター	ブラシレス
10	→定格電圧	48V
11	→速度	400±10r/min
12	→出力	500W
13	バッテリー (注1)	鉛酸バッテリー,48V20AH
14	コントローラー	12tube
15	充電器	48V3A
16	充電時間 (注2)	8時間(ほぼ空の状態の場合)
17	最高速度	40Km/h
18	1回の充電当たりの走行距離 (注3)	45km以上
19	登坂能力	10°未満
20	パッケージカートン寸法	1800×550×1030mm

注1) 充電回数：約500回 (※保証値ではありません)

注2) バッテリーの残量が30 - 50%の場合は約4 - 6時間

注3) 弊社テスト値：30km定速・平地走行の場合 (走行速度、道路の状態により変わります)

最後に

電動スクーターは大手バイクメーカーもまだまだ参入のとば口にあり、これまでは中小の会社が2年間で1万台ほど販売しただけですので、一般的な認知度はまだまだ低い状態です。

中国では、大都市ではすでに電動スクーター・バイクしか走ることができません。販売台数も2000万台と桁違いです。

その中国での電動スクーターの使い方は、まさに「下駄」です。

汚れても洗いません。ボディパーツが割れたり、ヒビが入ったりしても、ガムテープを貼って乗っています。毎日、買い物に通勤にガンガン使われています。

そのせいか、3年ぐらいで買い換える人も多くいます。

もちろん、中国では「免許がいらないか、簡単に取れる」「ヘルメットもかぶらなくても良い」「道路も自動車用と電動スクーター用が分かれている」というように、日本とはずいぶん環境が違うので、そのように爆発的に普及したのかもしれませんが、日本でも広く普及する可能性は大いにあると思います。